

テーマ「初めての選挙を終えて」

朝倉東高等学校 堀内 玲菜

私は今年、高校生として初めて選挙に行きました。今年から選挙権が十八歳へと引き下げられ、初めは驚きを隠すことができませんでした。そして、十八歳に引き下げとなったことに対して、疑問と反対する心が生まれてきました。「引き下げをしても行く人が少ないのではないか」「政治に興味を持っている若者が少なく曖昧な投票になってしまわないのか」など、様々なことを思いました。

そんな中、私は事前に政治のことについて調べ、投票へ行きました。初めてだったということもあり、緊張した部分もありました。事前に調べておいて良かったです。投票へ行き思ったことは、高校生の間でも社会に貢献することができたことで、一気に社会参加の主体になれたと思いました。また、国民の一人として社会のことを考え貢献することが大人の責任になると感じました。今まで私は「学生のうちはまだ大人ではない」という意識がありました。自らを大人の一步手前と位置付けていました。しかし、この選挙をとおして変わりました。自分も自国の政治に関わるのだと考えると、一人の大人だと意識しました。社会と自分を結びつける一助となり、社会の構成員だという自覚を持つ良い機会となりました。

私は選挙に行く前は十八歳への引き下げに反対でしたが、今はとても賛成しています。なぜなら、自分の意思を伝える行為が可能となったことで、今まで考えなくても良いと思っていたことにも目を向け、自分の意思を伝えることに対する責任も生じるからです。

以前の私のように、政治は遠い存在と思っている人は多いです。だからこそ、もっと多くの人に政治に興味や関心を持ってほしいと思います。そして、社会に貢献することで国全体が良い方向へ変わると思いました。私もこれからもっと政治の関心や興味を持ち続け、選挙へ行ったことで感じとったことを多くの人へ伝え、社会に貢献していきたいと強く思います。